

インタビュー

福岡の持続的発展につながる活動をしている方々にインタビューしてきました。

竹イノベーション研究会

8月24日、福岡大学の佐藤教授にお話を伺いました。タケノコを採らなくなったため、放置された竹林が全国で問題になっています。伝統工芸品の利用はあるものの、大量に使用する

用途がないことが課題でした。ところが、佐藤教授らが発明した竹チップ舗装は竹を大量に使用する優れものです。竹チップを配合した歩行者系舗装は、自然の風合いで景観性が良いのはもちろん、保水性があるため路面温度上昇が抑えられます。さらに、歩行者への足の負担も少ない人に優しい材料です。しかしながら、現在は、原料として使用する竹の供給が追いつかず、普及の妨げとなっているとのこと。竹林の保全活動を行うNPOなどとの協力により、更なる普及を図りたいとおっしゃっておられました。

子どもの学び館

小中学生の個別指導塾。館長の福永千恵美さんと夫の宅司さんにお話を伺いました。宅司さんは、一人芝居で全国的に

有名な元小学校の先生。千恵美さんも、子ども病院の院内学級担当を含め、小学校の先生として30年のキャリアをお持ちです。学び館で大切に



していることは、「自己肯定感」を育むこと。学び館は、個別指導だからこそ、それぞれの子どものいいところを引き出すことができるということ。お二人のお話を伺っていて思ったことは、学校教育に多様性が必要であるということ。一つのものさしですべての子どもを測るから、できる子とできない子に分けられてしまう。ものさしが多様であれば、一人一人の良さに注目することができる。不登校の小学生は全国で2万人以上、中学生は9万人以上。福永夫妻はフリースクールもニーズに合わせて実施しています。地域の様々な知識と経験を持った方々に講師として参加していただき、多様な学びの場を提供する。子どもだけではなく、一般の方も参加できる学びを通じた地域の交流拠点を考えておられます。子どもの学び館で、いろいろな教室をしたいという方は、ぜひお問い合わせください。電話 092-202-1655。

福岡市水産加工センター

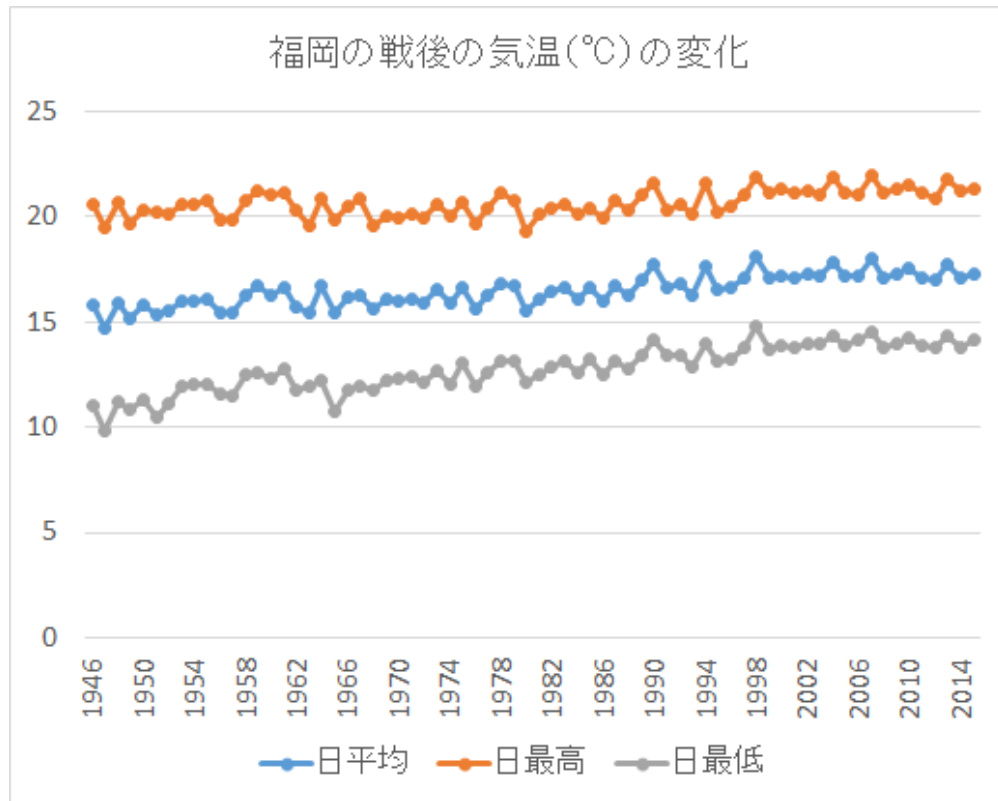
魚滓を飼料原料となる魚粉にリサイクルしている施設です。11月2日、福岡市水産加工公社の杉本さんにお話を伺いました。この施設では、市内及び近隣の水産加工業者や魚屋さんから出される魚のアラを蒸煮して魚粉を作ります。平成17年度に処理能力45t/日の新施設を稼働しました。しかし、魚の消費も、入ってくる魚滓の量も減少傾向にあり、

昨年処理量は27.3t/日。さらに、今年は魚粉の価格が下がり、一層、経営が悪化しているとのこと。他方、魚滓の処理を行う民間企業もあるとのことから、平成31年度末を目標に解散することが決まっているそうです。全国的にも数少ない、公設の処理施設ですが、食品リサイクルを推進しようという世の中の流れの中で、解散されるとは残念な気がします。ちなみに、同センターの建設費は約25億円、市が運営に対して補助している費用は平27年度に約19百万円でした。



福岡市の戦後の気温の変化

下のグラフは、福岡市の戦後の気温の変化を表しています。70年で平均気温は2°C、最高気温は1.3°C、最低気温は3.4°C上昇しています。つまり、最高気温よりも最低気温の上昇が平均気温を押し上げていることが分かります。最低気温が0°C以下の日は、戦後まもなくは20日以上ありましたが、最近は一桁です。他方、最低気温が25°C以上の日は、戦後は20日以下でしたが、最近は50日を超える年も多いです。



編集後記：関東では、11月の初雪が54年ぶりだとか。急に寒くなり、すっかりお鍋がおいしい季節ですね。私はキムチ鍋にはまっています。熱くて辛くてすっごく温まります。(内田)

【発行者】
特定非営利活動法人イマジン
福岡市早良区祖原 14-20
Tel 070-5818-6150
Email info@imagine.or.jp



サステナブルシティ福岡キャンペーン
<http://sustainablecityfukuoka.jp>

For You and For Me

第6号 2016年12月

ご挨拶

慌ただしい年の瀬を迎え、すっかり寒くなりました。しかし、昔に比べるとずいぶん温かいと感じることはありませんか。そこで、福岡市の気温の変化について調べてみました。特集をご覧ください。11月4日、世界の温室効果ガスの排出削減をより確かなものとする「パリ協定」が発効しました。残念ながら、日本は4日遅れの11月8日に批准し、遅ればせながら世界に足並みをそろえることができました。再びこのような事態に陥らないよう、持続可能な社会の実現にリーダーシップを発揮する日本にしていきたいと思います。

特定非営利活動法人イマジン 理事長 渡辺久也

特集：福岡市の気温の変化

2°C ⇒ 1.5°C

京都議定書では、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2°Cより低く保つこととしていましたが、先月発効したパリ協定ではさらに低い1.5°Cをめざすことになりました。ところが、福岡市の平均気温は過去100年で3度以上上昇しており、東京に次いで2番目に大きくなっています。(裏表紙に続く。)

【新刊情報】九州大学の馬奈木先生の著書「新国富論—新たな経済指標で地方創生—」が岩波ブックレットから発売されました。持続可能性の経済指標について、わかりやすくコンパクトに書かれています。しかも、お手頃価格の580円(税別)。ぜひご一読ください。